



# あのとぎの常呂・写真館

VOL 156

(2001年)

## 平成13年2月21日 共立会館新築落成式

▶平成14年1月号の「広報ところ」は、新しい共立会館落成式の様子を次のように伝えています。「共立地区の住民など約110人が集まり、新会館の落成式が行われました。式の中で佐藤区長は〈設計段階から5名の女性に加わっていただいたおかげで、水回りなどが使いやすく、人に優しい会館に仕上がった〉と喜びの言葉を述べました。この会館は、道道の拡張工事と旧会館が築30年となり、老朽化が進んだことに伴い、昨年9月から工事が進められていたもので、建設費2,898万円、床面積が60坪で旧会館に比べて約10%広くなりました。また、玄関ホールには明るい天窗、入り口にはスロープもあり、人に優しい所以が随所に見られます」



\*左・下  
角度を変えて見た  
共立会館

\*左下  
共立会館敷地内にある  
開基百年記念碑  
(常呂図書館のHP  
「記念碑・石碑データ  
ベース」に詳細記載)





\*落成式（右の旗は共立区章）



\*式典後の祝賀会



\*共立会館前での記念写真



\*女性たちの声を活かした調理室

\*下：玄関上の共立区の年表  
記念事業の一つとして、作成。  
（幅1.2mの額入り）



●『共立百年史』（平成7年6月発行）によると、共立地区における会館の歴史は、大正11年、川東8号と9号の間に建設した〈青年会館〉に始まります。この会館は堤防築堤のため、昭和2年に神社の北側に移転し、8坪を増築します。秋祭りには弁士が付く無声映画、浪曲、歌会があり、歌会には近隣の青年が競って出演し、盛会だったそうです。



●昭和15年に会館新築の気運が高まり、翌16年に新築することが決まり、場所は総会で協議の結果、地域の中心となる9号線南側、道道の西側に決まりました。用材は、福山官林の払い下げを受け、地域一丸となって伐採、共立まで搬出し、後日浜佐呂間で製材しました。パチパチや馬そりでの運搬は相当な苦労があったと記しています。

また、青年団が全員で福山の幌内川から砂利を3日間かけて馬そりで運び、基礎工事のコンクリート用に使い、基礎工事も地域総出で出役し、同年8月15日に完成しました。当時は東北海道随一と言われていたそうです。（上の写真は、昭和16年建設の共立会館落成式）終戦後、秋祭りには青年団主催の演芸会や映画、浪曲、芝居などで有効に使われ、会館はいつも満員の盛況だったそうです。●昭和40年頃から会館の老朽化と寒いことから、こじんまりとした暖かい会館の要望が高まり、昭和45年、10号の現在地に建設。その後、狭すぎるということで55年夏に増築落成をしています。



昭和55年建設の共立会館（撮影年は不明ですが、増築後）  
『常呂町百年史』本文では「昭和45年建設」ですが、  
巻末の年表は、「46年12月」となっています。  
『共立百年史』は45年建設。